

今日のトピック アジア・オセアニアの株式市場（2016年10月）

相対的な割安さが目立つ。今後は利益成長を織り込みへ

ポイント1 足元で反発

懸念が徐々に薄らぐ

- アジア・オセアニア株式は、2015年後半から2016年初めにかけて調整しました。米国の利上げ観測の高まりや原油価格の大幅な下落などが背景です。また、アジア・オセアニア企業の収益も、中国の景気減速などを背景に、2014年4-6月期をピークに低下基調となりました。
- その後、米国の利上げが慎重なペースになるとの期待や新興国からの資本流出が回避されるとの見通しから、新興国に対する懸念が徐々に薄らぎ、アジア・オセアニア株式市場は堅調さを取り戻しました。

ポイント2 相対的な割安さが目立つ

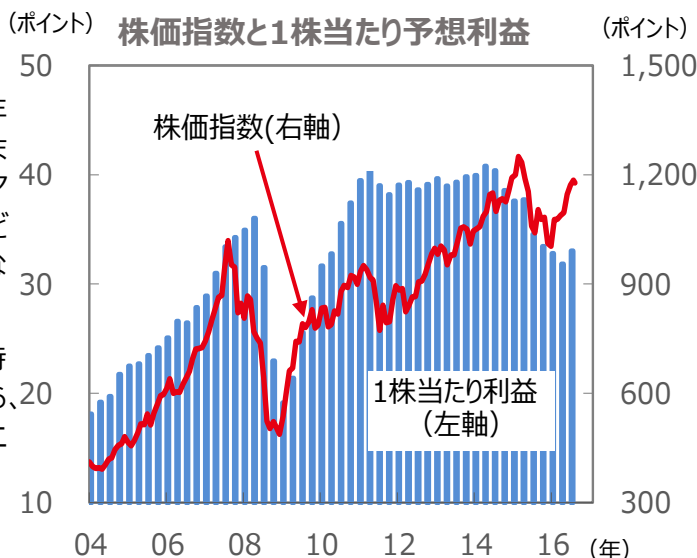
厚めの配当利回りが下支え

- 株価が堅調に推移していることで、株価収益率などのバリュエーション（株価評価）指標は上昇しました。配当利回りは昨年3%台でしたが、株価の上昇により、足元では2%半ばの水準まで低下しました。それでもバリュエーションを見ると、アジア・オセアニアの株式市場は、他の市場に比べて相対的に割安さを示すものが多いのが特徴です。

今後の展開

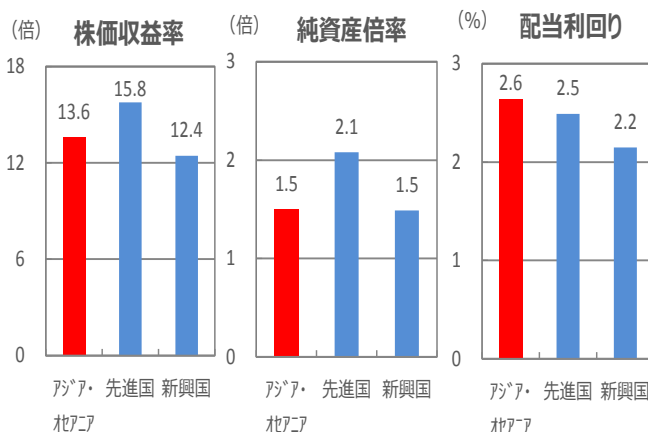
企業業績に回復の兆し。利益成長を織り込む展開へ

- 米国の利上げは非常に緩やかなペースとなる見込みです。米利上げ前後で新興国の株式市場が不安定化する局面がないとは言えないものの、経常収支などファンダメンタルズは改善しています。1株当たり利益も4-6月期を底に上向き始めており、17年の増益率は+11.0%（FactSet）と予想されます。アジア・オセアニア株式市場は利益成長を織り込む展開となる見通しです。



(注) データ期間：株価指数は2004年3月～2016年10月（直近は10月13日）。1株当たり予想利益（今後1年）は2004年1-3月期～2016年7-9月期。いずれもMSCI AC アジア・パシフィック（日本を除く、配当込み、現地通貨ベース）による。予想はFactSet。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

各種株価指標の比較



(注) データは2016年10月13日。MSCIの各株価指数による。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2016年10月 7日 ASEANの「PMI」（アジア）

2016年10月 3日 上方修正された「アジア経済見通し」（アジア）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。